

F-3 明治以降における家政に関する教育の発達について (ヤノ報-7)

東京家政学院 大家政 手塚六郎 中村ヨシ 亀高京子 熊田知恵
板谷麗子 ○三東純子

目的 今回は、書物の発行面から、明治18年までに発行された家政書および関係書の位置づけをすることと、今後の研究における時代区分にひとつよりどころを得ることとを目的とする。期間は明治初年から昭和20年までとした。

方法 家政書および関係書を、初版の年次別に整理し、発刊のし方、著者や編者、時代背景、などとの関連において概観した。これらの書物は、明治前期書目集成、国会図書館蔵書、国立教育研究所蔵書、本学蔵書などを中心に調査した。

結果 明治18年までは、文部省の出版を除くと著者中心の啓蒙的な出版がなされていたと思われる。明治19年に開始した通信教育は、学校教育以外の方法による家政学の系統的学習の機会を拡大した。また、明治26年頃からの叢書や全書の類の発行、同31年頃からの個人的共著、30年代後半からの学会による出版、40年代からの研究会による出版などに、分担執筆による著者の専門化傾向や研究指向を見ることが出来る。その他、教育制度、教科書に関する制度、戦争などの影響は大きい。明治期、ことにその初期には、女のみし之の中に家政を説くものが多いけれども、後年になるとその内容は変化している。教育制度の変化とも考之合せると、書物の発行面からも此の期をヤノ期としたことは適切であったと思われる。